

# 平成28年産ヒノヒカリ栽培暦

## 1. 育苗基準

**主な作業**

- 育苗箱は、10a当り20箱準備する。(必要に応じて、増減して下さい。)
- 栽培履歴証明・品種固有の特徴維持・病害虫予防の為、**種子更新**を行って下さい。
- 種子は、10a当り3kg準備する
- 箱泥は、20箱当り、合成培土を60~70kg用意する。床土に、約2キロ。上土に、約1キロ使用する。
- もみ枯れ細菌病・苗立ち枯れ細菌病予防の為、必ず、**塩水選**を行って下さい。

**【塩水選】**

種別	比重	10Lに加える量
うち	1.10	食塩 1.42kg 又は、硫酸 1.92kg

※ 塩水選後は、良く水洗いをして下さい。

**【種子消毒】**薬剤に、24時間浸漬する場合

種別	水	薬剤
3kg(1反分)に対し	6L	ホルタックスターナSE 30cc(200倍) + スミチオン乳剤 6cc(1000倍)

注意 ①芯枯れ線虫予防の為、必ずスミチオン乳剤を混用する。  
②消毒中は、3回ほどかき混ぜる。  
③食毒現役は、適切な処理を行う。

○芽立ちを均一な状態にそろえる為、浸種日数を充分に取る。種子は、播種前日の夕方(鳩胸から1mm程度)に上げる。

○播種前に床土に充分灌水後、苗立ち枯れ病予防の為、タチガレン液剤500倍を1箱に、500cc灌注する。(100箱分:水50Lにタチガレン液剤100cc)

○播種量は、1箱(1合)で**130g(1.1合)**を基準とする。

○覆土は充分に行う。

○育苗箱は、日当たりが良く、風通しのよい場所に並べ、ラブリットで被覆する。

**もみ枯れ細菌病対策**

1. 塩水選・種子消毒の実施
2. 播種量・催芽粒130g(1.1合)
3. 風通しのよい場所に並べる
4. ラブリットを長時間かけない
5. 水をかけ過ぎない

○被覆期間中の灌水は、土が乾いたら1日1回ラブリットを外して行う。

○徒長防止の為、苗の長さが4~5cmになったら、ラブリットを外す。

○灌水は、覆土が乾いてから行う。根張りを良くし徒長を防止するため、夕方の灌水は、極力避ける。



【目標とする苗】

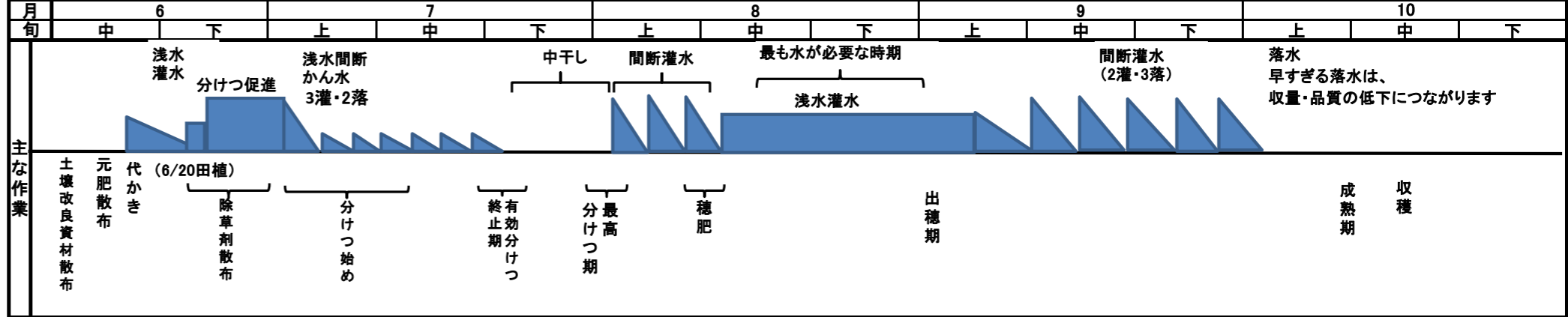
○病害虫予防のため、**田植え前3日~当日(薬剤による)**に露を払い、箱処理剤を1箱当たり50g散布する。散布後は、薬剤が土の表面に落ちる様に灌水する。

※箱処理剤は、確実に1箱当たり50g散布しないと防除効果が劣ります。

栽培暦 (10a当り)

日付	肥料名 使用薬剤名	使用量
種まき		
粗おこし		
元肥え施肥		
箱処理剤		
田植		
除草剤散布		
追肥		
穂肥え		
病害虫防除		
病害虫防除		
収穫		

## 2. 水管理



以下の時期を除き原則として生育期間を通して間断灌水を行います。  
 ◎田植え後10日~2週間は活着促進とジャンボタニシの予防の為、浅水灌水します。◎田植え後35日前後から中干しを開始します。(中干しは、薄くひびが入るくらいにしてください。)  
 ◎幼穂形成期~出穂~開花期は水が最も必要な時期なので浅水落水をします。(幼穂形成期20日前頃) ◎台風接近時は、深水にして風によるしおれを防ぎます。◎充実を良くするため落水は、遅くにします。)

## 3. 土づくり

1. 地力増強のため、完熟堆肥(2t)・稲麦藁(全量)をすきこむ。  
 ●麦藁をすき込む場合は麦藁を腐らせる為、耕起前に硫酸を10kg/10a散布して下さい。  
 ●麦藁をすき込む場合は根腐れ防止の為、間断灌水を行って下さい。
2. 健全生育、品質向上、病害虫予防の為、次のいずれかを土壌改良とし、施しましょう。  
 ●**ハイグリーン...30~45kg/10a** もしくは、**ホスピタ...40kg/10a**  
 ☆黒ぼく田、山間部は、**ホスピタ**を推奨します。
4. 施肥基準  
 一般全総施肥例(元肥え施肥から入水までの期間が長くなると肥料の効率が低下します。)  
 普通作型 (10a当り)

肥料名	成分	元肥	穂肥	備考
コウノシマ444	14-14-14	40~50kg		化学肥料
ハイパワー484	14-18-14	40~50kg		化学肥料
追肥化成716	17-1-16		20~30kg	追肥専用化成
ダイヤ545	15-4-15		20~30kg	苦土入り追肥化成

※地力に応じて、施肥量を調節して下さい。  
 省カー発型 (10a当り)

肥料名	成分	施肥量	備考
ダイヤロング200	20-10-10 Me1	40kg	ノンコーティング肥料
クリスタルコート253	22-15-13	40kg	コーティング肥料

※地力に応じて施肥量を調節して下さい。  
 ※省カー発型ですので基本的に、追肥・穂肥えは行わないでください。  
**品質向上・収量増加・倒伏防止に** (10a当り)

肥料名	成分	施肥量	散布時期
ハイグリーン	ケイ酸・苦土 微量要素	30~45kg	★荒起こし~元肥施肥時
		30~45kg	★出穂40日前(中干し時)
ホスピタ	ハイグリーン リン酸5%	40~50kg	★荒起こし~元肥施肥時

★肥料の混合も行っております。肥料を混合すれば一度の施肥で、効率アップ(有料)

## 5. 箱処理剤

薬剤名	使用量	使用時期	薬剤効果
ブイゲットフェルテラチス	50g/枚	緑化期~ 移植当日	イモチ・白葉枯れ・虫
フェルテラチス	50g/枚	播種時(覆土前) ~移植当日	イモチ・ウンカ・その他の虫
エバーゴルフワイド	50g/枚	播種時(覆土前) ~移植当日	イモチ・紋枯れ・白葉枯れ・虫

※散布した箱処理剤は、培土表面に落とすように灌水してください。  
 ※箱処理剤は、確実に1箱当たり50gを施用して下さい。少ないと、防除効果が劣ります。

**ハイグリーン・ホスピタを使って  
 美味しいお米を作りましょう!!**

## 6. 除草剤

除草剤名	使用量	田植同時 処理	抵抗性 雑草	処理期間 (田植え後)	適用期間
ツインスターフロアブル	500ml		○	5日~30日迄	ノビエ3葉期
トビキリジャンボ	500g		○	3日~30日迄	ノビエ2葉期
ゴーサイン粒剤3kg	3~4kg		○	10日~30日迄	ノビエ2.5葉期
アピロトップMX 1キロ粒剤51	1kg	○	○	移植時~30日迄	ノビエ3葉期
ショウリョクジャンボ ジャンボタニシ食害防止剤入り	500g		○	当日~30日迄	ノビエ2葉期

※除草剤散布後は最低3日程度、落水口を締め、止水して下さい。  
 ※水持ちの悪い水田、軟弱苗では、薬害が出やすいので注意して下さい。  
 ※毎年同じ薬剤を使用すると効果が劣りますので、薬剤の変更をお願いします。  
 ※ジャンボ剤は、深水で使用しますので、出来るだけ使用は避けて下さい。  
 もし使用する場合は、ジャンボタニシの動きを止めるショウリョクジャンボを使用して下さい。

## 7. 中・後期除草剤

除草剤名	使用薬剤量	希釈水量	散布時期	適用期間
クリンチャー1キロ粒剤	1~1.5kg		田植え後25日~ 収穫30日前迄	ノビエ5葉期
クリンチャーバスME	1000ml	100L	田植え後15日~ 収穫50日前迄	ノビエ5葉期+丸葉雑草
クリンチャーEW	100ml	100L	田植え後20日~ 収穫30日前迄	ノビエ5葉期
アンカーマンDF	1kg		田植え後14日~ 収穫60日前迄	ノビエ5葉期

※使用時期・薬量は、必ず守って下さい。

## 8. 病害虫防除

月	旬	粉剤	液剤
8月	中旬	アプロードロムダンモンカットF粉剤DL 3~4kg/10a 収穫21日前迄	アプロードロムダンモンカットエアー 130mlを水100Lに希釈/10a 収穫21日前迄
8月	下旬	ブラシントレパリダ粉剤 3~4kg/10a 収穫14日前迄	ブラシントレパリダ粉剤 100mlを水100Lに希釈/10a 収穫7日前迄
9月	月上旬		アプロードスタークルゾル 100mlを水100Lに希釈/10a 収穫7日前まで



万来屋物産株式会社  
 久留米市山本町豊田71-5 担当  
 TEL 0942-44-6101  
 FAX 0942-44-6353 携帯